

# TSUNAGU 繋ぐ

文責：嶋原浩之  
令和4年3月18日(金)

## “繋ぐ”二つのエピソード

間もなく令和3年度を終えようとしています。

令和元年度から「TSUNAGU 繋ぐ」のタイトルでスタートしたこの校長通信も間もなくエンディングを迎えます。令和元年6月21日にスタートした第1号で、校長通信タイトルに込めた思いを以下のように記していました。

子どもたち、教職員、保護者や地域の皆様と私自身が「どう繋がる」か、それぞれの「繋がり」をどう広げたり深めたりできるか、人的な「繋がり」ばかりでなく、夢や目標、成長した自分自身へと子どもたちを「繋ぐ」ことにも力を注げればと考えています。

さて、当初の思いからブレずに3年間を過ごすことができたのでしょうか。振り返れば決して満足のいく結果ではなかったかもしれませんが、「繋ぐ」ことを大切に“できることを精一杯”やってきたとは思っています。

今回、この年度末ではありますが2つの“繋ぐ”エピソードがありましたので紹介いたします。

### エピソード 1

## 福島—東志和交流事業

東日本大震災後、夏休みに福島の子どもたちを広島に招待ししのびのびと活動させてくださったり、けん玉を寄贈してくださったりと支援をしてくださったそうです。

今回、会場となった「東志和小学校が統廃合」になることを、当時ホームステイに参加した杉妻小のご家庭がそのことを知り、お礼の気持ちを学校からもお願いできないかと相談を受けました。

大切な“繋がり”と感じ、6年代表児童数名からのお礼のメッセージと1年生が楽しくけん玉で遊んでいる写真、そして感謝状を贈らせていただきました。約10年ぶりに繋がった「本校と東志和」、できればこの後も交流が続けられたらうれしいですね。



### エピソード 2

## ウクライナ緊急募金



先日、卒業生の  さん（ 高校2年）が本校を訪れました。「ウクライナの子どもたちを助きたい！」とユニセフの緊急募金への協力依頼のため“若者有志の会（11名 本校卒業生  さんも含む）”を立ち上げたそうです。趣旨に賛同し募金活動を本校でも実施することとしました。私たちの心もウクライナの子たちに“繋いで”いきたいですね。

